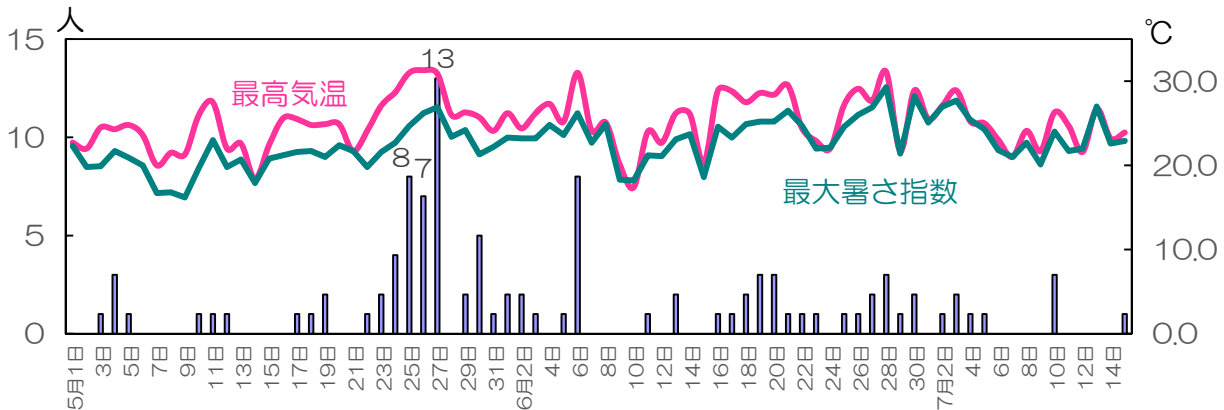


熱中症情報

<搬送数>

令和元年5月1日～7月15日までの搬送数（消防局データを使用）は、計104人（5月55人、6月40人、7月9人）でした。5月25～27日は真夏日（最高気温30.9～31.3℃）となり、搬送数も7～13人と多かったです。6月の真夏日は2日間（6月6・28日）で、搬送数は5月よりも少なかったです。7月（1～15日）の搬送数は、搬送が無かった日が9日あり、昨年の同時期と比べて少ない状況です。

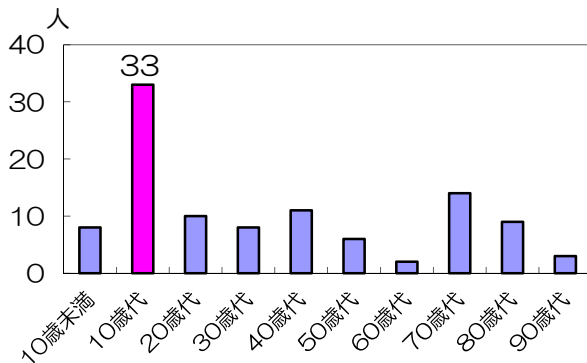
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。7月に入っても、気温が上がらず過ごしやすい日が続いていますが、本格的な暑さはこれからです。エアコン・扇風機を上手に使用して、暑さから身を守りましょう。



暑さ指数とは? 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは?](#)」をご覧ください。

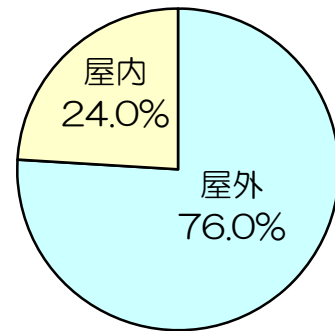
<年齢別>

年齢別では、10歳代が33人と、最も多く、31.7%でした。



<発生場所>

屋外76.0%、屋内24.0%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症74.0%、中等症23.1%、重症2.9%でした。

重症は、高齢者（65歳以上）の屋外（歩行中・作業中）、屋内で発生しており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

